

伯耆町職員による公金横領事案への対応

このたび、本町の職員が公金を横領するという、極めて重大な不祥事を引き起こしましたことにつきまして、町民の皆さま、そして関係者の皆さまの信頼を大きく裏切り、多大なるご心配とご迷惑をおかけしておりますことを、深くお詫び申し上げます。

町政を預かる最高責任者として、町民の皆さまの信頼を守るべき立場にありながら、このような事態を未然に防げなかったこと、そして、長期間にわたり見過ごしてしまったことは、痛恨の極みであり、心よりお詫び申し上げます。

二度とこのような事態を繰り返さぬよう、業務における厳格な二重・三重のチェック体制の構築、全庁的な管理体制の総点検、職員一人ひとりのコンプライアンス意識の徹底をはじめ、組織の抜本的な立て直しに全力を挙げて取り組んでまいります。また、失われた公金の全額回収に向け、法的措置も含めたあらゆる手段を講じ、厳正に対処してまいります。

失墜した町政への信頼を回復することが容易ではないことは深く認識しております。今後は、全庁を挙げた再発防止策の徹底と不退転の決意による業務執行を通じ、失われた信頼の回復に努めてまいります。

改めて、町民の皆さまに多大なるご心配とご迷惑をおかけしましたことに対し、心よりお詫び申し上げます。

伯耆町長 小澤 敦彦

1 職員の懲戒処分

次のとおり本町職員の懲戒処分を行いました。

- (1) 被処分者 日光公民館 館長 青井 洋一
(植田正治写真美術館 前館長、53歳、男性)
- (2) 非違行為の種類 公金横領
- (3) 処分内容 免職
- (4) 管理監督者の処分 課長（前教育次長、53歳、男性）減給10分の1（3ヵ月）
教育次長（51歳、男性）減給10分の1（3ヵ月）
- (5) 処分年月日 令和8年8月27日（木）
- (6) 処分理由

町立写真美術館において令和元年度から館長を務めていた当該職員は、令和元年度から令和7年度末までの期間にわたり、美術館の入館料（現金）の一部を町の会計に入金せず、約2,600万円を横領していたことが判明しました。さらに、その不正な事実を隠蔽するため、町の一般会計決算資料や一般財団法人植田正治写真美術財団の理事会資料を意図的に改ざんするという悪質な行為を行っていました。

これらの行為は、公務員として全体の奉仕者たるにふさわしくない非行に該当するほか、事実を隠蔽する目的で公文書等を改ざんしたことは、法令違反および職務上の義務違反にも該当します。

この重大な非違行為を受け、「伯耆町職員の懲戒処分その他非違行為に対する処分に関する規程」に基づき、当該職員を免職処分としました。また、その上司2名については、当該職員を管理監督すべき職員であったとして、減給の懲戒処分としました。

(7) その他

職員の不祥事に対する管理監督責任と町民に対する謝罪並びに社会的信用の回復に資することを目的に町長、副町長、教育長の給与の減額措置について、町議会に提案し、可決されました。

町長 減給 10分の3（6ヵ月）

副町長および教育長 減給 10分の2（6ヵ月）

※期末手当（12月支給分）にも反映

2 今後の対応

(1) 損害賠償請求

着服した金額については、当該職員は全額を返済する意向を示しているものの、一括での返済はできないとのことであり、具体的な返済および返済計画の合意には至っていないことから、弁護士に相談のうえ、失われた金額の全額返還を求めて、具体的な返済計画や確実な回収方法について協議を進めています。

あらゆる手段により、全額の返還を徹底して追求します。

(2) 刑事告訴

本事案については、刑法第253条に規定されている業務上横領罪に該当するものとし、弁護士および鳥取県黒坂警察署に相談のうえ、刑事告訴を行う準備を進めています。

3 再発防止の取り組み

本事案は、町行政に対する信用と信頼を著しく失墜させるものであり、決して許されることではありません。全職員に対し、公務員としての倫理の確立、服務規律の遵守と綱紀粛正の徹底を周知するとともに、公金の取扱いについては、再発防止に向け、現金や書類等の上司による定期・不定期の点検などチェック体制の強化を図ります。

さらに、今回の事案の原因を徹底的に究明し、より実効性の高い再発防止策を策定するため、まず役場内で、公金管理・業務適正検証プロジェクトを立ち上げ調査を行い、さらに外部の有識者等による第三者委員会を新たに設置します。

具体的には、現金や公金を取り扱うすべての部署において管理体制の総点検を行ったうえで、「現金を取り扱う人」「帳簿を管理する人」「取引を承認・監査する人」の職務を完全に分離し、一人で経理業務が完結できない仕組みを構築します。

また、定期的な人事異動を徹底し、同じ職員を長期間同じ経理・会計ポストに留まらせない、不正を許さない組織づくりを推進します。